

報告

民主党北海道総支部連合会 2015年度政府予算編成に向けた 政策懇談会

常任理事・医療政策部長 笹本 洋一

当会は民主党北海道総支部連合会からの案内を受け、平成21年度から政策懇談会を開催してきた。従来は各団体が一堂に会して開催していたが、今年度は、7月9日（水）午後4時から1時間強にわたり、北海道医師会館9階理事会室で個別に行われた。出席者は民主党北海道総支部連合会、代表代行・徳永エリ参議、副代表・小川勝也参議、副代表・逢坂誠二前衆議、幹事長・勝部賢志道議、政調委員長・高橋亨道議、青年局長・道下大樹道議、赤根広介道議、当会から長瀬清会長、藤原秀俊副会長、三戸和昭、目黒順一、伊藤利道、後藤聰、笹本洋一の各常任理事であった。

民主党の勝部幹事長の司会で開会、冒頭、徳永代表代行より、長瀬会長にはTPP反対集会に何度も出席していただいたことに対するお礼と、今国会で「医療介護総合確保推進法」に反対してきたが衆議院・参議院で強行採決されたこと、本日は医療現場での問題点などを聞きたいと挨拶があった。長瀬会長より、本日の懇談会開催のお礼と「医療介護総合確保推進法」と医師法第21条との問題点、先に田村厚生労働大臣と石破自民党幹事長にメディカルウイング（医療優先固定翼機）の支援を要望していることを含めた挨拶があった。

懇談に入り、医療政策等に関する要望書に基づき担当役員から説明した。Ⅰ. 総論、Ⅱ. 国民皆保険制度の堅持（混合診療、環太平洋経済連携協定（TPP）、医療介護総合確保推進法）について小職より、Ⅲ. 地

域医療の確保（医師確保対策、電力需要対策に係る医療機関等への対応）、Ⅳ. 事業税と消費税（社会保険診療報酬に対する事業税非課税措置の存続、社会保険診療等に対する消費税）について伊藤常任理事より、Ⅴ. 診療報酬改定、Ⅵ. 患者申出療養制度の導入について小職より、Ⅶ. 医療事故調査制度について藤原副会長より、Ⅷ. ワクチンの定期接種化について三戸常任理事より、Ⅸ. 救急医療体制の充実・確保（航空医療体制の整備：メディカルウイング、ドクターヘリ、小児救急医療体制と現行救急医療体制の問題、災害医療対策と原子力防災対策の充実・強化、休日夜間診療確保対策事業の継続）について目黒常任理事より、Ⅹ. 認知症対策について藤原副会長より、Ⅺ. 看護職員及び実習施設の確保・充実（看護職員確保対策、看護教育実習施設確保対策）、Ⅻ. 看護師等養成所運営費補助金について伊藤常任理事より、各々説明と要望を行った。

意見交換では、逢坂副代表が、本日の要望はわれわれの思いと一致している。消費税増税は逆進性対策・転嫁対策・医療に係る問題のクリアが必要である。過去2回の診療報酬改定は私どもが頑張った。混合診療は要望内容に同感である、と話された。小川副代表は、現政権の社会保障に冷たい態度は変わらないと思っている。診療報酬はどのくらいあげなくてはいけないのか、「民主党であれば絶対に診療報酬を上げる」と大きな声で言うことで、0.1%でも多く上がるように努力する、と話された。高橋政調委員長は、医療事故調査制度についてご自身のご家族の実体験を示され、日本脳炎ワクチンの定期接種化については後押しすると述べた。長瀬会長が、高橋知事だけでなく実施主体の市町村長のとらえ方が重要である、と追加した。赤根道議が、道立衛生学院が看護師養成所のレベルを高めていたこと、補助金の交付が遅いことは改善させたい、と発言された。勝部幹事長は、北海道看護協会からも同様の要望があり、調整していきたい、と話された。その後、丘珠空港の重要性、滑走路の延長問題、発着率の向上について意見交換が行われた。最後に小川副代表より、診療報酬をめぐる戦いは与野党がないので、一丸となって頑張る。また、このような機会を設けていただきたい、と挨拶があり、懇談会を閉会した。

